

むすび

その後、星の中の問題ばかりでなく、超新星の残骸、X線星へのアクリーション、銀河中心爆発による2つ目の電波源の形成、密度波による渦巻腕等に宇宙気体力学が適用され、衝撃波は重要な役割を演じています。しかも、大型計算機の使用とそれに応じた巧みなコードの開発により、これまで不可能と思われた計算が目を見張るばかり多く行なわれております。これを見ていると、私共が昔、非均質媒質中の衝撃波の伝播に苦心したことなどは、骨折り損のくたびれ儲けのような感無きにも非ずです。

しかし、これらの計算した流れは、本当に安定なものでしょうか？ 超新星の残骸については、レイレー・テイラー不安定を取り入れているようですが、今後いろいろな不安定性を考慮して渦の発生の可能性なども調べる

必要がありましょう。また §5 で述べた乱流の意味からいえば、これらの計算は、平均流への一種の近似とも考えられましょう。これはちょうど、星の中の対流を扱うのに、今でも混合距離論という古めかしいものを用いているのと似ています。勿論これは他の信頼できる簡単な理論が未だないからであって、一方、多くの人がこの理論の解明に当り、少しずつでも前進しつつあることを忘れてはなりません。乱流の場合も事情は全く同じです。

私の申し上げたいことは、電子計算機は自動的にこういうことを取り上げてはくれず、矢張り人間が基礎的な考察を行ない、計算機で命令を与えて行かねばならないということです。私共の研究がこういう意味でいささかの問題提起をなし得たとすれば幸いです。

大分説教じみてきましたので、今後の発展を期待しつつ筆を擱きます。

お知らせ

第18 回流星会議

1977年8月6日(土)・7日(日)の2日間、鳥取市浜坂の鳥取砂丘子供園で開かれます。くわしくは、〒680 鳥取市富安 324 多賀利寛 Tel. 0857-24-0068 宛お問い合わせ下さい。

郵政省電波研究所一般公開

1977年8月2日に各地付属機関を含む施設と、研究成果が公開されます。くわしくは下記へお聞き合せ下さい。

〒184 東京都小金井市貫井北町4丁目2-1
郵政省電波研究所企画部 Tel. 0423-21-1211

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価240円(〒45円) 77-9月号・8月5日発売!

●9月号おもな内容

- ★大火球の出現で東北地方の天文ファンはもえています。活発な東北地方の天文同好会、天文遺跡などを紹介。
- ★栗栖茂さんが、25cmの全自動惑星カメラを自作されました。なにが、どんな風に自動なのか、木星・火星の接近を前にくわしく紹介。
- ★私の天体写真術は、脇坂治男さんの太陽面の撮影法です。黒点はもちろん、白斑の撮影法も加えて、太陽面の記録写真の撮影法です。
- ★長野市の酒井宣夫さんが、変型イギリス型の20cm反射赤道儀を作られました。グラビアページで紹介。ほか

星図・星表
めぐり

1974年から75年にかけて、日本天文学会の会誌「天文月報」に連載された「星図・星表めぐり」をまとめたものです。天文月報に連載中から各方面より単行本化が望まれていたものです。一般向きの星図の解説から専門家向けのものまで、24編の原稿はいずれもその道の専門家の手によるものばかりです。

星図や星表はどんなものがあるか、どんなリストがあるかなどを調べるための本です。

●日本天文学会編/B5・104ページ

定価1,200円・好評発売中

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
振替東京7-6294 電話03(292)1211